

神戸復興塾とは

「神戸復興塾」は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災を契機に浮かび上がってきた様々な問題に取り組む自発的な集団です。「塾生」は震災以降、被災者の救援や被災地のまちづくりにボランティアとして関わるようになった研究者・市民運動家・ジャーナリストなど。各自が本業を離れ、それぞれの専門性を生かしながら、復興のあり方や具体的な支援策について討論を重ね、「現場の知」の蓄積に努めてきました。

こうしたNPO（非営利民間組織）は、被災地のあちこちで活動していますが、当塾は特定の課題や個別の地域を対象としていないこと、また、構成メンバーの幅広さ、専攻や所属にとらわれない自由闊達な発想などを特色としています。

●全体的な方向性

大災害により甚大な被害を受けた神戸をはじめとする阪神間の各都市の将来のあり方を学際的・総合的に検討して、その立場から復興を支援すること。

●当面の目標

1. フィールドスタディー型の公開講座の開催
2. インターネットなどを利用した支援ネットワークづくり
3. 新しい市民事業の育成など

神戸復興塾メンバー

顧問

一番ヶ瀬康子	日本女子大学名誉教授・東洋大学教授
伊藤 滋	東京大学名誉教授・慶応大学教授
新野幸次郎	神戸大学名誉教授・神戸都市問題研究所
米山 俊直	京都大学名誉教授・大手前女子大学長

神戸応援隊

青池 憲司	映画監督（青池組）
延藤 安弘	千葉大学
ウーリッヒ・トーマン	ハンブルグ・シュタットパウ
内田 雄造	東洋大学工学部
浦野 正樹	早稲田大学社会科学研究所
岡島 醇	（財）市民防災研究所
熊谷 博子	映像ジャーナリスト
佐々波幸子	朝日新聞東京
篠田 正浩	映画監督
関 満博	専修大学
関沢 英彦	博報堂生活総研
高見沢邦郎	東京都立大学工学部
高見沢 実	横浜国立大学工学部
成田 孝三	京都大学文学部教授
林 泰義	（株）計画技術研究所
林 義人	（株）ピーネット
広原 盛明	京都府立大学学長
三嶋 伸一	朝日新聞東京
山田 勝巳	墨田区川の手倶楽部
山本 俊哉	（株）マヌ都市建築研究所
吉岡 忍	ノンフィクションライター

塾長

小森星児 神戸商大名誉教授・大阪商業大学

級長

大津俊雄 (株) シティコード研究所

委員

上田耕造 神戸協同病院
 浦上忠文 神戸市議会議員
 小林郁雄 まちづくり(株) コープラン
 三谷 真 関西大学商学部
 室崎益輝 神戸大学工学部
 森栗茂一 大阪外国語大学

事務局長

田村太郎 多文化共生センター

塾生

明石照久 こうべまちづくりセンター
 網 麻子 神戸新聞社会部
 石東直子 石東・環境研究室
 市村浩一郎 阪神淡路コミュニティ基金
 大村和志 大村農園
 岡本光彩 あいであーと
 実吉 威 震災・活動記録室
 烏田 誠 (株) 海文堂書店
 辻 信一 (株) 環境緑地研究所
 中島克元 中島獣医院
 中村順子 コミュニティサポートセンター神戸
 南部靖之 神戸ハーバーサーカス
 野崎 隆 遊空間工房
 林 達雄 元JVC代表
 政井孝道 朝日新聞
 松下哲雄 災害支援ボランティアネットワーク機構
 松本 誠 神戸新聞情報科学研究所
 山口一史 神戸新聞文化財団
 本野一郎 神戸市西農業協同組合

<連絡先>

塾長 小森星児 TEL 078-411-5777 FAX 078-411-5755
 級長 大津俊雄 (株) シティコード研究所
 TEL 06-231-0188 FAX 06-231-3788
 事務局長 田村太郎 多文化共生センター
 TEL 06-941-4793 FAX 06-941-5875

全国・世界

復興隊

運営委員

塾生

若菜宿

神戸心応援隊

神戸復興塾 縁起

はじめに

●阪神・淡路大震災直後、未曾有の大災害によって神戸は10年前の水腫まで落ち込んだという異方が広く配布した。そしてこの遅れを取り戻すために道路・港湾の復旧や全半壊の解体戸数に合わせた住宅建設が復興計画の重点施策とされた。

●しかし、この異方は道の一面を昇落としている。この大震災によって、神戸は突然10年後の世界に投げ出され、否応なしに高齢化、空洞化、膨大な福祉負担などの課題に直面することになった。今、われわれが取り組んでいる問題は、まさに近い将来わが国の社会が解決を迫られる問題を先取りするものである。こうした観点から、神戸復興塾は被災地で生まれた「21世紀の社会を切り開く鍵になるかもいれない新しい動き」に注目し、その活動を担う人々へ惜しみない声援を贈るものである。

復興塾が生まれるまで

●今回の震災では初めての経験に戸惑いつつ、被災者の救済や被災地のまちづくりに多くのボランティアが本業を離れて、しかもその専門性を生かす活動した。そのなかで大学の研究者、医師、建築家、ジャーナリストなどが自発的に結集し、復興のあり方や具体的な支援策を語り合ったのが復興塾の母体である。このようにして生まれた団体は被災地のあちこちで活動しているが、特定の地域や既存の研究所などとちがわれないわかれの活動は構成メンバーの多様さと自由闊達な発想を特色としている。

復興塾の使命

●復興塾を構成しているのは自発的、自発的に参加したメンバーであり、職業や専門に依りてそれぞれの組織に所属しているのほもちろん、震災復興に関連する別のボランティア団体でも活動しているのが普通である。こうした経緯から復興塾の会合や電子会議は必ずから各種団体の活動を横に繋ぐ情報ネットワークの役割を果たしてきたが、今後とも一層この機能の充実強化に努めたい。さらに生活再建やまちづくりの現場の場で大震災が啓示した共通と協働を基調とするサスナテイナーナル・コミュニケーションの萌芽を大胆に追求することこそ復興塾の使命である。

復興塾の活動方針

- ◆復興塾メンバーの開催
塾内外の講師を招いて新幹線で酒祭りに響んだ問題提起をお願いし、参加者による自由な討論を通じて相互啓発と交流をはかる。
- ◆復興塾公開講座の実施
グループ単位で塾生を受け入れ、まちづくりの現場で講義や演習を開催するほか、ボランティア体験や復興関連施設見学の可能性を設ける。
- ◆震災復興支援情報ネットワーク構築
現在、ホームページの開設や電子会議の運営を進めているが、将来はデータベースの整備や情報発信の充実を目指す。

復興塾の組織と運営

- あるべきNPO・ソングソングを構築する復興塾は自主・中立・公開の原則を遵守し、市民の一員としてボランティア精神に基づいて行動する。塾の運営は塾生が協力して当たるほか、顧問および応援隊を委嘱する。

- ◆神戸アジアタウン推進協議会
- ◆アートエイト神戸
- ◆関西建築家ボランティア
- ◆神戸まちづくり協議会連絡会
- ◆コシクテイイバウソング事業推進協議会
- ◆サバイバルネットワーク機構
- ◆市民語り部キヤラバンド
- ◆震災・酒造記念堂
- ◆人的権益研究会
- ◆多文化共生センター
- ◆栗駒白地地域復興支援チーム
- ◆長田の良さを生かしたまちづくり懇談会
- ◆阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク
- ◆阪神グリーンネットワーク
- ◆被災地実地調査研究会
- ◆被災地復興調査会
- ◆県外避難者支援全国ボランティアネットワーク
- ◆Power Folk (明るく哲学者・阪本光彰が、ひょうたんなま)
- ◆東灘区助け合いネットワーク
- ◆コミュニケーション・サポートセンター神戸

塾メンバーが参加している活動団体等

インターネットやパソコン通信を利用した(神戸)震災復興支援ネットワーク構築

●震災の復興支援のためには、現在、被災地を中心に活動している各種NPOが、被災地の現状や復興についてのさまざまな情報を共有し、交換し、それぞれの活動内容を告知していく必要があります。そうしたNPOのネットワークを具体的に構築していくために、復興塾はそのネットワークのノードになるべく、インターネットやパソコン通信を利用した(神戸)震災復興支援ネットワーク1を構築し、実践しています。

●その第一段階として、復興塾ホームページ (<http://www.survival.org/fukkokuiku/fukkokuiku.htm>) を開設しました。ここでは、復興塾の紹介とメンバーが所属しているNPOのホームページへのリンクが張られています。近い将来、メンバーが所属しているNPOのすべてがホームページを開設すれば、復興塾ホームページへのリンクのアクセスは、復興塾の状況や震災支援活動の状況が一望できることとなります。

●第二段階として、復興塾の会議室(ホームページ)をネットワーク上に開設し、ここでは、復興塾のメンバーによる電話会議や、情報交換、各種連絡が行われています。将来は、完全公開にする予定です。